

おすすめルート③「伝統行事・伝統芸能の地を訪ねる」

東京近郊に位置する八潮は、近年ベッドタウンとして人口が増え、街の様子が大きく変わってきています。しかし、古くから守り伝えられてきた伝統行事や芸能は、現在も地域の人びとによって大切に受け継がれています。行事を守り伝える地を訪ねてみましょう。

スタート 八潮駅

●● (1.6 km)

宝光寺

大瀬氷川神社の別当。大瀬の獅子舞は、ここから出発して神社へ向かう。

●● (150m)

大瀬氷川神社【5】

3頭の親子獅子が富士浅間神社へ参拝する道中を描く獅子舞が奉納される。寛文2年(1662)ごろに、領主から獅子頭を拝領して始まったと伝わる。

●● (600m)

大瀬太郎左衛門屋敷観音堂

地方霊場である武蔵三十三観音霊場の一つ。毎年4月18日に観音講が行われ、ご開帳される。



●● (1.6 km)

専稱寺【10・16・19】

阿弥陀像をかたどる庚申塔が見られる。古くは施餓鬼の後に、万作芸が踊られてきた。この地域の万作芸は明治末年に下総より教わったと伝えられており、「下総踊り」とも称した。

●● (1 km)

木曽根氷川神社【6・7】

正月に予祝行事として弓ぶちが行われる。かつては中川の土手沿いにあったが、昭和61年(1986)に中川堤防改修のために当地に遷座した。

●● (750m)

土手守り様(普門院入口)

二丁目の獅子舞の起源に関する伝承に登場する供養碑。中川の堤防が決壊しないよう、祈願して建てられた。現在は普門院入口に移築。



*かつては土手上にあった。

●● (250m)

恩田家屋敷林ふるさとの森

国登録文化財「恩田家住宅」(非公開)【36】の屋敷林。恩田家の敷地は全体が周囲よりやや高く造られており、水害から守るために二丁目の獅子頭を蔵に預かっていた時期もある。

●● (120m)

二丁目氷川神社【26】

天王様の祭りともいわれる例大祭では、二丁目の獅子舞が奉納される。「綱」や「太刀」など悪疫やケガレを祓い清める願いを込めた舞が多い。

●● (150m)

八潮市潮止揚水機場記念ひろば【37】

潮止村の耕地整理事業として設置された揚水機場の跡地。二丁目と鶴ヶ曾根の境にあり、近くの貉塚では、鶴ヶ曾根下地区が行う辻切行事(蛇ねじり)のしめ縄が掲げられてきた。



*辻切が行われた貉塚

●● (600m)

鶴ヶ曾根下久伊豆神社【7・29】・宝幢寺

弓ぶちなどが行われる。古くは隣接する宝幢寺の境内神社であったが、明治初めの神仏分離令により敷地を分けた。宝幢寺の観音堂は武蔵三十三観音霊場のひとつ。

●● (500m)

ゴール 鶴ヶ曾根上久伊豆神社【7・28】

「天明六年」(1786)と墨書された弓ぶちに使う三方(神饌をのせる台)が伝わる。この神社について、明治40年(1907)の八條唱歌に「松繁り 夏の盛も暑からず」と唄われ、現在も境内には松の根が張っている。



*ルートは裏面の●●●を参考にしてください。